

主の導きに従う荒野の旅

出エジプト記一三章17〜22節

主は彼らの先を歩まれ、昼も夜も歩めるよう、昼は雲の柱によつて彼らを導き、夜は火の柱によつて彼らを照らされた。(21)

イスラエルの民が四十年もの長きにわたつて荒野の旅を続けることができたのは、主が彼らを常に導かれたからでした。その神の導きは昼も夜も絶えることはありませんでした。「主は彼らの先を歩まれ、昼も夜も歩めるよう、昼は雲の柱によつて彼らを導き、夜は火の柱によつて彼らを照らされた」。雲の柱と火の柱は主のご臨在を表しています。どんなときにも、神ご自身がイスラエルの民と共におられることを主は目に見える形で示してくださいました。荒野を旅する神の民にとり、主のご臨在こそ最大の励ましでした。主が共におられたからこそ、困難な旅を続けることが出来たのです。天国に向けて旅を続ける私たちにとり、主がどんなときにも共にいてくださるとは何と幸いなことでしよう。約束の地、神のみもとにたどり着くまで、臨在の主の導きに従つて歩もうではありませんか。